

問題点をあげるとすれば、授業開講のために相当の準備が必要になること、受入先企業の開拓が難しいこと、そのために多くの学生を対象にできないことなどがあげられる。仮に小規模であっても継続的に実施していくことがこれからの課題であろう。

将来の改善・改革に向けた方策

現在は、情報文化学科だけで行われているインターンシップを、他の3学科においても正課授業として取り込む方策を検討することが今後の課題である。学部全体の相当規模で行うことを前提に、他大学での実施状況調査や関連団体との交渉、学科の教育課程の再構築などを、タイミングよく一斉に検討・実施することが必要になる。

5 履修科目の区分

(1) カリキュラム編成における、必修・選択の量的配分の適切性、妥当性

現状の説明

各学科では、選択科目群が多彩で幅広い分野を学ぶことが可能となっている。

点検・評価

幅広い科目群の設置は、視点を変えれば、学科の特色が曖昧になってしまって学生の学習を困難にしてしまう場合も考えられる。また、科目数の多さは、教員の負担が多くなるばかりか、学科の基本教育とは何かについての議論の必要性を放置する方向に作用してきたとも考えられる。

将来の改善・改革に向けた方策

卒業に必要な必修科目と選択科目の配分を変更して、必修科目を増やし学科の専門性を高め、学生の履修方針を明解にする必要がある。また、選択科目群を大幅に減らす方向で検討している。平成17年度カリキュラム改正では、4時間目までの時間割を実現できるように、カリキュラム全体をスリムにし簡素化して、また卒業要件も単純化して学生にわかりやすい授業体系の実施を目指している。

6 授業形態と単位の関係

(1) 各授業科目の特徴・内容や履修形態との関係における、その各々の授業科目の単位計算方法の妥当性

現状の説明

授業形態を、講義を主たる内容とする講義科目と演習・実技指導を主たる内容とする演習科目に分けて単位計算を行っている。講義科目には、半期科目で2単位、通年科目で4単位を単位とし、演習科目には半期で1単位、通年で2単位としている。

点検・評価

授業科目の履修形態とその単位計算方法の妥当性については特に問題はないと考えている。

将来の改善・改革に向けた方策

将来の授業形態として、学内キャンパス・教室に情報ネットワークが設置され、講義しながら演習を行うような科目形態が想定できる。このような新しい授業形態についての単位計算は、このような授業形態がその学科の特色となるように、演習付き講義科目として4単位を与えて手厚く扱うように柔軟に対処することとしたい。

7 単位互換、単位認定等

(1) 国内外の大学等と単位互換を行っている大学にあつては、実施している単位互換方法の適切性

現状の説明

本学では、平成8年度から放送大学と、平成10年度から千葉県内私立大学・短期大学38校と単位互換協定を締結して、放送大学とは本学学生の派遣、千葉県内私立大学・短期大学とは双方の学生の派遣・受入事業を実施している。本学では、該当学生を「特別聴講学生」と称し、相手大学の授業を受講し、相手大学のシステムに則って単位を修得し、本学で修得した単位として卒業要件単位に認定している。

なお、相手大学の取り決めにより、特別聴講費用が発生する場合は受益者負担となっている。

点検・評価

制度そのものは、大学の教育課程の不足分を補完するものとして、あるいは知識の幅を広げるための学習機会を与えるものとして有益ではあるが、なかなか学生に利用されていないのが現状である。学生の余力の問題、費用負担の問題、千葉県内私立大学・短期大学との単位互換の場合は、移動時間等を含めた各大学のロケーションの問題等が、学生に利用されていない原因である。制度発足からかなり年月が経過していることもあり、しかるべき時期に、制度の見直しが必要である。特に、放送大学との単位互換は、本学の基礎・教養教育を補うものとして、有効に活用する手段を積極的に検討すべきであろう。

長所と問題点

単位互換制度には、学生が選択の幅を広げられること、他大学の学生・教員と交流できることなどの長所はあるが、学生にとってみればプラスαの学習行動である。そのプラスαの学習行動を促進させるには、モチベーションの向上のほかに、利用環境の整備が必要になる。現在の本学の単位互換制度には、その双方に積極的な対応がなされていない点が課題点である。